

令和5年度 宮島学園第3回学校運営協議会

令和6年2月29日(木)18:00~19:30

- (参加委員) 岡田 好江 森本 啓司 山本 卓士
菊地 寛 白水 浩 平岩 透
平山 真明(欠席) 木村 泰造(欠席) 内山 健(欠席)
- (学 校) 林 健一郎 坂田 昇 橋本 浩敬
木村 美穂子 寺坂 尚子
- (傍 聴) 廿日市市教育委員会 1名

(内 容)

- 1 開 会 学校長あいさつ
- 2 令和5年度学校評価最終報告

【質疑】

- (1) 小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校経営
について

(委 員)ブロックで学校生活を行う上で、見えてきたことを教えてほしい。

(学 校)ブロックごとのレクリエーションを行ってきた。活動する中で、上級生が下級生に相手に応じた対応ができるようになった。最近では、同学年でも相手に応じた対応ができるようになった。具体的には、場に応じた声の大きさや話し方ができるようになった。全体的に周りのことを考えるようになり、相手を思いやる気持ちが育ってきた。

- (2) 地域の財産を学ぶ教育体系の確立について

(委 員)産業まつりには、5年生に参加してもらった。最初は緊張してあまり声が出せなかったが、時間がたつにつれて声も大きくなり、積極的にチラシを渡す光景が見られた。2日間にわたり行ったが、地域にとっても、5年生にとってもよいまつりであったと思う。

(委 員)昨年度の防災訓練は学園生の参加で防災の意識が高まり、とても盛り上がった。

(委 員)6年生の他の地域と比較する取組で、宮島との違いが分かり、宮島のよさも分かる。また、他地域のよさも分かる。他地域と比較することは学習に深まりがもて、資質・能力の育成に役立っている。

(委 員)比較するには、お互いのことをよく知らなければ違いが分からない。そのためには、事前の学習や準備が大切である。



(3) 多様な学園生の育ちの場の共有について

(委員)宮島学園については、あいさつを推奨しているか。

(学校)学園から学習で校外に出る時は、教員自ら積極的にあいさつをするようにしている。登下校の際や個人で行動するときは、一概にあいさつをしななければならないとは学園生に伝えていない。船員さんなどいつもお世話になっている方には、進んであいさつするように伝えている。学園生がたくさんの方との出会いが増えて、あいさつが広がっていけばよいと願っている。

(委員)学園生がよくあいさつしてくれるからうれしい。うれしい気持ちを大切にしながら、大人から率先してあいさつをしていったらいい。

(委員)「歩く会」とはどういうものか教えてほしい。

(学校)学園生の中には学習や学級に不安を抱えている子や不登校傾向の子、障害を抱えている子などいろんな子どもたちがいる。そういう子ども達の課題を解決するために、支援の在り方や方策について専門家の意見を聞きながら、教職員が組織的な取組をしないとうまくいかない。その方策を考える会が「歩く会」である。中学校を卒業する時のゴールを見据えたうえで、学級担任としてどうするか、教科の先生の関わりはどうするか、学級づくりにはどのような方法があるか、ブラッシュアップしていく会である。この会には専門家であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー(家庭とつながる方)が参加し、情報を共有して取組を考えている。

(委員)多様な子どもの割合はどのくらいいるか。スクールカウンセラーはどのくらい来られるのか。どんなことをしているか。

(学校)他の学校の割合と比較したら多い。スクールカウンセラーは2週間に1回来校している。子ども達だけでなく、保護者や教員もカウンセラーに相談している。様々な悩みを聞いてもらい、解決に向けて方向を見出してもらっている。

(委員)児童生徒会長が自らあいさつを重点目標に掲げていたので、学校全体があいさつしていこうという機運になっている。これからも、学園生が率先してあいさつに取り組んでほしい。

(4) ワークライフバランスのとれた元気な職場について

(委員)「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合が5.1ポイント下がった要因について教えてもらいたい。

(学校)たくさん地域行事があり、目的をもって参加することで、力をつけることができる。しかし、教員の数が少ないことにより、教員1人当たりへの負担が大きい。仕事量と人数のバランスがよくないので負担感につなが

っている。

(委員)運動会でも一人一人の先生方が活躍していて、大変だと感じた。児童生徒数もだんだん増えてきて負担感も増すのではないだろうか。

(学校)もちつきの時、人数が増えていながら昨年度と同じように体験させたいという気持ちが強かった。そのため、予定していた時間をオーバーして次の松明づくりの開始時間が遅くなった。それぞれの活動が終わるごとに反省をし、次年度に向けて分析をして、学校側が大変なところは具体的に地域の方をお願いしていきながら、よりよい活動になるようにしていきたい。

(委員)児童生徒数の増加により、大変なことが増えてきていると聞いた。現在はどうか。

(学校)7年、8年、9年と幼稚園時代からともになじんできた中で、急に途中から入ることはなかなか今まで一緒というものでもないし、多感な年頃でもある。いろいろな課題が生まれてきている。それは当然のことであるととらえている。学園生がうまく関わっていけるように乗り越えていく過程を大事にしていきながら学んでいくことは大切であり、必要なことである。また、学校の物品については、足りないものについて困っている。足りないがために十分な学習の提供や安心できる学校生活が過ごせないことがある。学校は安心・安全な場を大切にしている。先日はランチルームの椅子が足りないと言ったところ、すぐに対応していただけた。旧市民センターにあることがわかり、その椅子をいただく予定になった。このように物品が足りない場合があるので地域の皆さんも協力していただきたい。

(委員)情報をいただければ、協力する。ただ、学校側から言ってもらわないとわからないので言ってほしい。

(学校)宮島支所と連携を図りながら、情報を提供する。

3 来年度学校運営方針(案)について

4 地域連携の在り方について

(委員)学校と連携している地域の組織を大事にすることが大切である。そのために、地域のコミュニティのまちづくり団体やPTAとうまく連携して改善していけばよいと思う。

(委員)島外の学園生が増えているということで新しい風があってよいものだと簡単に考えていた。もっと地域と学校が困り感を共有したり、改善していけるところは改善したりするなど深い話ができる場が必要である。

(委員)PTAも10年前と違い、島外からの学園生が増えたり、保護者と学校の接

点が少なくなったりして温度差がある。どう解決していくかが今後の課題である。

- (学 校)今こういう状況になっているのも一過性のものとして、この地域で学んでよかったと思えるようにしていきたい。そのため情報共有していきたい。島外の方の宮島に対する熱い思いがあり、まつりなどの行事に進んで参加し、協力していってもらっている姿からこれから明るい展望があると思う。
- (委 員) 学校がかかわっている地域行事について、学園生の学習につながり、かつこれからの宮島に伝えていくべきものを取捨選択して、もっと精選する必要がある。地域からの要望に何でもかんでも学校が協力していると学校が疲弊する。
- (委 員) もっと地域の行事の参加の仕方を具体化し、地域が学校を支援し協力する体制が必要だと思う。
- (委 員) キャリアスタートウィークは、体験が終わった時の学園生の表情がよかった。学園生が体験したことを発表できる場を地域で提供できるように考えていきたい。
- (学 校) 学校と地域の関わり方の取捨選択が必要である。平日に行われる行事は学園生が参加しやすいが、土日は教職員が対応することが難しいため参加しにくい。対応することが可能な大人がいれば学園生の土日の行事への参加が可能である。具体的な困り感を出して考えていきたい。新しい知恵が欲しい。

5 次年度の協議会委員の選出について

来年度も引き続き委員を継続していただくとともに、島外などあらゆる立場の方を会員に招き、充実した会にしていきたい。